

学術委員会企画シンポジウムと第4回学術研究優秀賞について

第31回日本脊髄外科学会に於いても、学術委員会企画シンポジウムを開催します。本シンポジウムは、脊椎・脊髄に関する基礎研究の普及と発展を目的としています。内容は、基礎研究に関する教育講演と、公募演題によるシンポジウムの二部形式です。

第一部では、教育講演として大分大学医学部生体構造医学講座の三浦真弘先生より、脳脊髄液に関する最新の知見をお話ししていただくことになりました。脳脊髄液の循環に関する古典的な理論はよく知られていますが、実際の髄液の産生・吸収はより多くの部位でなされており、その役割も多彩であることがわかってきました。脊柱は脳脊髄液を含む構造物です。この教育講演から、髄液の真実を知り、髄液が脊椎脊髄疾患の病態生理に与える影響について考えたいと思います。

第二部は、応募演題から選出した基礎研究の発表です。日本脊髄外科学会の会員が、現在どのような研究を行い、どのレベルに達しているのか、今後の課題は何かを知ることを目的としています。このため、脊髄損傷や神経再生、脊髄機能の探求、脊椎・脊髄のバイオメカニクス、脊髄機能画像など、広く脊椎・脊髄・末梢神経の基礎研究に関する演題を募集いたします。応募いただいた演題は、学術委員会によって抄録を厳正に審査して、シンポジウム演題を決定いたします。シンポジウムに選出された演題は、さらに最優秀の発表を当日、審査によって決定し、学術研究優秀賞として、副賞（10万円）とともに表彰いたします。会員の皆様、こぞって応募をよろしくお願いいたします。

学術研究優秀賞の審査方法について

学術委員会企画シンポジウムとして応募していただいた基礎研究演題の抄録は、独創性や研究の完成度などの面から学術委員が審査し、4題ないし5題の演題をシンポジウム発表演題とします。シンポジウムでは、さらに発表の完成度も含めて学術委員および学術委員会が指名する審査員によって審査を行い、最優秀の発表演題を学術研究優秀賞として選出します。

日本脊髄外科学会 学術委員会
委員長 小柳 泉